薬学部 ディプロマポリシールーブリック

		卒業時 4	4年次終了時 3	2	基礎的 1
1. プロフェッショナルリズム	【DP】 ・ 薬剤師としての責務を自覚し、強い責任感と倫理観を持って、患者や地域住民に医療を提供できる。	医療現場において、もてる知識を統合し、学生薬剤師として相応しい責任感と倫理観をもって患者や医療関係者と接し、患者や地域住民に医療を提供できる。	模擬的な医療環境において、医療のプロフェッショナルを目指す学生としての責任感と倫理観を持ち、薬剤師としての責務を認識して医療の提供をシミュレートできる。	医療のプロフェッショナルを目指す学生として薬剤師の責務を認識し、責任感と倫理観を持って行動できる。	医療のプロフェッショナルを目指す学生としての責任感と倫理観を知り、医療系学生として相応しい行動ができる。
2. コミュニケーション能力	【DP】 ・ 多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を築くことができる。 ・ 患者や地域住民、医療関係者などとの間で、必要な情報の収集・提供を適切に行うことができる。	医療現場や社会において、患者・家族や地域住民、医療関係者など多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を築き、相手の話を傾聴し共感的理解を示しながら（ナラティブ）、必要な情報の収集・共有・提供を適切に行うことができる。	模擬的な医療環境において、患者・家族や地域住民、医療関係者など多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を築き、相手の話を傾聴し共感的理解を示しながら（ナラティブ）、必要な情報の収集・共有・提供を行うことができる。	模擬的な医療環境において、患者・家族や地域住民、医療関係者など多様な背景を持つ人々と良好な人間関係の構築を目指し、相手の話を傾聴しながら、必要な情報の収集・提供を行うことができる。	学生生活・カリキュラムにおいて多様な背景を持つ人々と良好な人間関係の構築を目指し、相手の話を傾聴し、わかりやすく情報を伝えることができる。
3. 患者中心のチーム医療	【DP】 ・ 医療を共に担う多職種の職能を相互に理解・尊重し、患者に関わる情報を共有できる。 ・ 多職種と連携・協力しながら薬剤師の専門性を発揮し、患者中心の医療を実践できる。	医療現場において、多職種と連携・協力しながら患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を発揮して、患者中心のチーム医療を実践できる。	模擬的な医療環境において、他学部との学生と連携・協力しながら患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を発揮して、患者中心のチーム医療をシミュレートできる。	学生生活・カリキュラムにおいて、他学部の学生と連携・協力した上で、医療を共に担う多職種の職能を理解し、グループワークにおいては患者に関わる情報を共有し、薬剤師の専門性を意識しながらチーム医療をシミュレートできる。	学生生活・カリキュラムにおいて、医療を共に担う多職種の職能を知り、他学部の学生と連携・協力できる。
4. 専門的実践能力	【DP】 4-1 医薬品の調製、管理、供給・医薬品の多様な特性と法的規制を理解し、医薬品の調製、管理、供給を適切に実施できる	医薬品の多様な特性と法的規制を理解したうえで、医療現場において医薬品の調製、管理、供給を適切に実施できる。	医薬品の多様な特性と法的規制を理解したうえで、模擬的な医療環境において医薬品の調製、管理、供給をシミュレートできる。	医薬品・化学物質の多様な特性と生体との相互作用を理解し、代表的な医薬品を法的規制のもとに適切に取り扱うことができる。	医薬品・化学物質の代表的な特性や生体に関する基本的事項を理解する。
4. 専門的実践能力	【DP】 4-2 薬物治療の計画・実践・評価・患者の病態とともに患者・家族の心理・社会的背景を把握した上で、科学的な根拠に基づいた安心・安全な薬物治療を実践できる。	医療現場において、患者・家族の心理・社会的背景に配慮しつつ、病態を把握したうえで、科学的な根拠をもった安心・安全な薬物治療を評価・計画・実践できる。	模擬的な医療環境において、患者・家族の心理・社会的背景に配慮しつつ、病態を把握したうえで、科学的な根拠をもった安心・安全な薬物治療の評価および計画をシミュレートできる。	与えられた模擬の患者情報に基づいて、病態を把握し、科学的な根拠に基づいた適切な薬物治療の計画を立案できる。	代表的な疾患の病態を理解し、薬物治療を実施するための基本的事項を理解する。
5. 社会的貢献	【DP】 医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療等を通じ、地域における人々の疾病予防、健康回復・維持・増進と地域の公衆衛生の向上に貢献する	地域の保健・医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、薬剤師の役割（プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療等）を実践して、地域住民の疾病予防、健康回復・維持・増進と地域の公衆衛生の向上に貢献できる。	模擬的な環境において、地域の保健・医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、薬剤師の役割（プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療等）をシミュレートできる。	地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識し、地域住民の疾病予防、健康回復・維持・増進と地域の公衆衛生の向上における薬剤師の役割と意義を理解する。	地域の保健、医療、福祉について現状を理解し、薬剤師に求められる資質・能力を認識する。
6. 薬学研究と自己研鑽	【DP】 ・ 医療・薬学に関わる研究課題に取り組む科学的探求心を有する。 ・ 論理的、批判的な視点から医療・薬学に関わる問題を発見し、解決するための方策を提示できる。 ・ 最新の知識や技能、必要な情報を、国際的視野に立脚して生涯にわたって獲得する意欲と態度を有する。	・ 医療・薬学に関わる問題を自ら発見し、最新の知識や技能、必要な情報を活用して 論理的、批判的な視点から解決するための方策を習慣的に提示する。 ・ 医療現場において、薬剤師の責務を認識した上で自ら目標を定め、実施内容を省察し、次の行動目標へ反映することができる。	・ 最新の知識や技能、必要な情報を修得する技能を身につけ、与えられた課題における問題点に対して論理的、批判的な視点から解決するための方策を討議し、自らの考えとして文章にまとめることができる。 ・ 模擬的な医療環境において、薬剤師の責務を認識し、自ら目標を定めて実施内容を省察し、次の行動目標へ反映することができる。	・ 研究倫理と統計の知識を修得し、基本的な研究手法と理論を修得するとともに、提示された課題について討議・発表する。 ・ 薬剤師の責務を理解し、自ら医療のプロフェッショナルを目指す上での目標を考え、自己省察できる。	・ 基本的な研究手法と理論を理解し、提示された課題について調べる。 ・ 医療のプロフェッショナルを目指す学生として、目標を持って学生生活に取り組み、その行動を自己省察できる。
7. アイデンティティ	【DP】 昭和大学の伝統を重んじ、その名誉を高めるために全力を尽くす。	医療現場・社会とのかかわりにおいて、昭和大学に基づいた目標を立て、倫理的に配慮した行動を常に自ら実践することで建学の精神（至誠一貫）を体現する。	模擬的な医療環境において、倫理的に配慮した行動をとり、建学の精神（至誠一貫）の観点から自己省察を繰り返す、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。	建学の精神（至誠一貫）に基づき、自己と他者の違いを理解し、他学部・他学年とのかかわり等における自己目標を立て、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。	建学の精神（至誠一貫）を理解し、友人との関わり等における自己目標を立て、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。

令和4年度 薬学部カリキュラムマップ

		卒業時		4年次終了時		基礎的	
		4		3		1	
		資質の到達レベル					
3. 患者中心のチーム医療	【DP】	【CP】		医療現場において、多職種と連携・協力しながら患者に関する情報を共有し、薬剤師の専門性を発揮して、患者中心のチーム医療を実践できる。		学生生活・カリキュラムにおいて、他学部との学生と連携・協力した上で、医療を共に担う多職種の職能を理解し、グループワークにおいては患者に関する情報を共有し、薬剤師の専門性を意識しながらチーム医療をシミュレートできる。	
	・医療を共に担う多職種の職能を相互に理解・尊重し、患者に関する情報を共有できる。 ・多職種と連携・協力しながら薬剤師の専門性を発揮し、患者中心の医療を実践できる。	体系的な学部連携カリキュラムを全学年で構築する。1年次はチーム医療の基本を理解し、学生間の連携・協力の基盤を身に付けるために、寮生活のもと、多様な学部連携科目を開講する。2～4年次は、多職種間の相互理解と連携・協力をもちに、チーム医療を実施するシミュレーションとして、累進的に構成された学部連携PBLチュートリアルを各学年で開講する。4年次末～6年次には、患者中心のチーム医療を、医療現場で実践する能力を身に付けるため、附属病院・地域での実務実習・学部連携実習を行う。チーム医療に求められる知識、技能、態度の評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。		模擬的な医療環境において、他学部の学生と連携・協力しながら患者に関する情報を共有し、薬剤師の専門性を発揮して、患者中心のチーム医療をシミュレートできる。		学生生活・カリキュラムにおいて、他学部の学生と連携・協力した上で、医療を共に担う多職種の職能を理解し、グループワークにおいては患者に関する情報を共有し、薬剤師の専門性を意識しながらチーム医療をシミュレートできる。	

学年	第1学年			第2学年			第3学年			第4学年							第5学年				第6学年																					
授業形態	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	実習・演習 ファーマシューティカルケア プログラム	演習	実習			実習																								
科目名	薬学への招待	ヒューマニティ	地域医療入門	チーム医療の基盤	基礎コミュニケーション	アカデミックスキルズ	初年次体験実習	薬剤師と医薬品に関わる法規範Ⅰ	コミュニケーション	在宅チーム医療と倫理 TBLⅡ	診療の流れを知る 実習	薬剤師と医薬品に関わる法規範Ⅱ	社会保障制度と医療経済	薬剤師の使命	薬と疾病チュートリアルⅠ(神経疾患)	薬と疾病チュートリアルⅡ(循環器疾患)	学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	調剤・患者対応入門 実習	急性期医療と薬剤師 実習	個別化医療	地域医療とプライマリーケア	放射性医薬品の利用と管理	在宅チーム医療と倫理 TBLⅢ・Ⅲ	EBM演習	薬と疾病チュートリアルⅢ(がん疾患)	実務実習事前学修	薬局実習	症候と疾患推測	臨床心理学の活用	医薬品の副作用・有害事象	センター実習	精神医療実習	症候と疾患推測	臨床心理学の活用	医薬品の副作用・有害事象	病院実習Ⅰ	病院実習Ⅱ(精神医療実習を含む)	薬局実習	学部連携病棟実習	学部連携地域医療実習Ⅰ・Ⅱ	薬剤師の臨床判断	学部連携地域医療実習Ⅰ・Ⅱ
資質の到達レベル (学年の目安)	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	3	2	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	3	4			

令和4年度 薬学部カリキュラムマップ

卒業時

4年次終了時

基礎的

		資質の到達レベル	4	3	2	1
6 薬学研究と自己研鑽	【DP】	<p>基本的な研究手法を修得するために、2年次から各専門領域の実習を実施する。3年次において研究倫理ならびに統計的手法を学ぶ科目を開講する。さらに国際的な視野を持って高度な専門知識、研究手法、そして科学的根拠に基づいた問題発見・解決能力を身につけるため、4～6年次には薬学研究を行う。4年次以降の薬学研究、実務実習、演習は、自学自習を強く促し、省察と適切なフィードバックによって生涯にわたる自己研鑽の土台を作る。学会、学位論文発表会などに参加し、卒業後も研鑽を積んでいる薬剤師の活動を知る機会も設ける。これらの評価には、筆記試験、口頭試験、実地試験、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、薬学研究については研究成果の発表と論文により総合的評価を行う。</p>	<p>・医療・薬学に関わる問題を自ら発見し、最新の知識や技能、必要な情報を活用して論理的、批判的な視点から解決するための方策を習慣的に提示する。</p> <p>・医療現場において、薬剤師の責務を認識した上で自ら目標を定め、実施内容を省察し、次の行動目標へ反映することができる。</p>	<p>・最新の知識や技能、必要な情報を修得する技能を身につけ、与えられた課題における問題点に対して論理的、批判的な視点から解決するための方策を討議し、自らの考えとして文章にまとめることができる。</p> <p>・模擬的な医療環境において、薬剤師の責務を認識し、自ら目標を定めて実施内容を省察し、次の行動目標へ反映することができる。</p>	<p>・研究倫理と統計の知識を修得し、基本的な研究手法と理論を修得するとともに、提示された課題について討議・発表する。</p> <p>・薬剤師の責務を理解し、自ら医療のプロフェッショナルを目指す上での目標を考え、自己省察できる。</p>	<p>・基本的な研究手法と理論を理解し、提示された課題について調べる。</p> <p>・医療のプロフェッショナルを目指す学生として、目標を持って学生生活に取り組み、その行動を自己省察できる。</p>
	【CP】					

学年	第1学年		第2学年				第3学年				第4学年				第5学年				第6学年																								
	講義	演習	講義	演習		実習	講義	演習		実習	演習	実習	実習・演習 ファーマシューティカルケアプログラム		演習	実習		演習	実習																								
授業形態	生物統計	薬学への招待	医療サイエンス演習	個人・集団・社会と健康	キャリアデザイン	在宅チーム医療と倫理 TBLII	生と死 演習	学修技法とステューデントデベロップメント	生理から病態へ 演習	物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法	医薬品の化学 実習	人体の成り立ちと機能 実習	生命体の成り立ち 実習	薬学英語1	薬学英語2	薬と疾病チユートリアル1(神経疾患)	研究倫理と統計 演習	薬と疾病チユートリアル2(循環器疾患)	キャリアデザイン	学修技法とステューデントデベロップメント	学部連携チーム医療PBLII・在宅ケア	健康と環境 実習	学部連携チーム医療と倫理 TBLIII・EIM演習	薬と疾病チユートリアル3(がん疾患)	キャリアデザイン	薬学研究 入門	薬局実習	臨床心理学の活用	症例研究入門	センター実習	精神医療実習	キャリアデザイン	臨床心理学の活用	アドバンスド薬学英語	病院実習1	病院実習2(精神医療実習を含む)	薬局実習	海外における薬剤師の役割を知る	薬学研究	学部連携病棟実習	アドバンスド薬学英語	薬学研究 I・II・III	薬剤師の臨床判断
資質の到達レベル(学年の目安)	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	3	2	2	3	2	3	2	3	3	4	3	3	4	3	3	3	3	4	4	3	4	4	3	4	3	

令和4年度 薬学部カリキュラムマップ

		卒業時	4年次終了時	基礎的		
		4	3	2	1	
7 アイデンティティ	【DP】 昭和大学の伝統を重んじ、その名誉を高めるために全力を尽くす。	【CP】 全学年にわたって実施する4学部連携教育やアイデンティティ教育により、本学の伝統や特長を認識し、昭和大学卒業生としてのプライドを持って医療に貢献する薬剤師を養成する。評価は口頭での確認やポートフォリオ等を用い、成長の過程も合わせて評価する。	医療現場・社会とのかかわりにおいて、自己省察に基づいた目標を立て、倫理的に配慮した行動を常に自ら実践することで建学の精神（至誠一貫）を体現する。	模擬的な医療環境において、倫理的に配慮した行動をとり、建学の精神（至誠一貫）の観点から自己省察を繰り返し、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。	建学の精神（至誠一貫）に基づき、自己と他者の違いを理解し、他学部・他学年とのかかわり等における自己目標を立て、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。	建学の精神（至誠一貫）を理解し、友人との関わり等における自己目標を立て、その実現に向けて真心をもって全力を尽くす。

学年	第1学年			第2学年		第3学年						第4学年					第5学年				第6学年														
授業形態	講義		演習	実習	演習		演習						演習	実習	実習・演習 ファーマシュー ティカルケア プログラム		演習	実習		実習															
科目名	地域医療入門	薬学への招待	チーム医療の基礎	ヒューマニティ	アカデミックスキルズ	初年次体験実習	キャリアデザイン	生と死	学修技法とステューデントテヘロフメント	在宅チーム医療と倫理 TBL II	薬剤師の使命	薬と疾病チュートリアル1（神経疾患）	薬剤師に求められる倫理観	薬と疾病チュートリアル2（循環器疾患）	研究倫理と統計	学部連携チーム医療PBL II・在宅ケア	キャリアデザイン	学修技法とステューデントテヘロフメント	学部連携チーム医療 PBL III・在宅チーム医療と倫理 TBL III	薬と疾病チュートリアル3（がん疾患）	キャリアデザイン	実務実習事前学修	薬局実習	臨床心理学の活用	センター実習	精神医療実習	臨床心理学の活用	キャリアデザイン	病院実習1	病院実習2（精神医療実習を含む）	薬局実習	学部連携地域医療実習Ⅰ・Ⅱ	学部連携病棟実習	学部連携地域医療実習Ⅰ・Ⅱ	学部連携地域医療実習Ⅰ・Ⅱ
資質の到達レベル (学年の目安)	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	3	2	2	2	2	3	3	3	3	4	3	4	4	4	3	3	3	4	4	4	4	4	4